資料 No.安研審 4-1

安全研究審議会

第 3 回会合議事録（案）

・日時：平成１９年１０月２５日(木)　13:30～16:45

・場所：システム計算科学センター　大会議室

・出席者

委員：佐藤委員長（原安協)、松本委員長代理（原子力安全基盤機構)、久木田（名古屋大学)、小林（大阪大学)、新田（原電)、班目（東大)、森山（京都大学)、山下（原子力安全基盤機構）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（順不同、敬称略）

オブザーバー：原子力安全委員会事務局、原子力安全保安院、原子力安全基盤機構

原子力機構：石島センター長、鈴木副センター長、安濃田、その他

・議事

１．前回議事録の確認

２．平成 18 年度安全研究審議会評価報告書について

３．材料試験炉（JMTR）の今後の利用計画について

４．ROSA 計画大型非定常試験装置（LSTF）の今後の利用計画について

５．安全研究に係る人材について

・配付資料

資料 No.　安研審 3-1　　第 2 回安全研究審議会議事録（案）

資料 No.　安研審 3-2　　平成 18 年度安全研究審議会評価報告書（案）

資料 No.　安研審 3-3　　材料試験炉（JMTR）の今後の利用計画について

資料 No.　安研審 3-4　　ROSA 計画大型非定常試験装置（LSTF）の今後の利用計画について

資料 No.　安研審 3-5　　安全研究に係る人材について　～安全研究センター～

＜参考資料＞

資料 No.　安研審　参 3-1 安全研究審議会委員名簿

資料 No.　安研審　参 3-2 第 2 回安全研究審議会速記録

議事

(1)　センター長挨拶と前回議事録の確認

石島センター長から人事異動等について紹介があった後、事務局から安研審 3-1 に基づき、前回議事録の確認を行った。

(2) 平成 18 年度安全研究審議会評価報告書（案）について

事務局から安研審 3-2 に基づき、平成 18 年度安全研究審議会評価報告書（案）ついて説明の後、以下のような質疑応答を行い、一部修正し、主査の確認の後、機構に報告することとした。

・ 報告書に用いられている中立性という言葉については、自分たちの科学・技術的所産に自負心や誇りを持つことと理解して欲しい。
・ 安全研究は、規制という意思決定に参照される知識を生み出すレギュラトリー・サイエンスの性格を有するため、行政官等に、どこまで分かって、どこからは自信がないかといった情報も伝えることを忘れないで欲しい。
・ 今回の報告書の対象は、平成 17 年度の成果だが、もう平成 19 年度の半ばをすぎている。機構の発足直後であったり、公募による受託事業の制約があるといったことは理解できるものの、評価結果を適切に研究に反映できるように報告書の作成時期を早めるよう配慮して欲しい。

(3) 材料試験炉（JMTR）の今後の利用計画について

機構説明者から、安研審 3-3 に基づき、材料試験炉（JMTR）の今後の利用計画について説明が行われた後、以下のような質疑応答が行われた。

・ JMTR に限らず実験施設全体について、安全研究全体の中での位置付け、役割、戦略についても、今後説明して欲しい。
・ 施設の維持・活用のためには、施設を支える人的資源（人材の確保・育成、技術の伝承）が重要である。

(4) ROSA 計画大型非定常試験装置（LSTF）の今後の利用計画について

機構説明者から安研審 3-4 に基づき、ROSA 計画大型非定常試験装置（LSTF）の今後の利用計画について説明があった。

・ ROSA は世界一規模のシステム総合実験施設であり、その特徴を活かして、今後、新型炉の安全研究にも活用して欲しい。

(5) 安全研究に係る人材について

事務局から安研審 3-5 に基づき、安全研究に係る人材について、安全研究センターの状況について説明があり、以下のような質疑応答が行われた。

・ 安全研究センターに所属する技術系職員は激減し、かつ高年齢化しているように見えるが、研究員に負担がかかっているのではないか？

機構設立に当たり、研究側と施設運営側とが分離されたため、かつて安全研究センターに所属していた技術系職員は施設運営側に所属する形になっている。ただ、技

術系職員の高年齢化は事実であり、さらに中期計画上、新規採用も難しいのが実態である。

- その意味で、大学や産業界だけでなく、機構内の開発部門との人事交流も視野に入れるべきである。
- 学協会等における規格・基準作成に若手を参画させ、人材育成の場として活用して欲しい。